

食中毒に注意しよう

食中毒を起こす原因は様々ですが、その内の約八割を占めるのが細菌性。そして罹患者の大部分が乳幼児から高校生までの子ども達です。

食中毒が起きやすいのは気温や湿度が高くなる夏場ですが、冷凍食品の増加等で年間を通じて油断できない現状にあります。特に細菌性の食中毒は重症化しやすく、激しい下痢、腹痛、嘔吐、発熱が続くと、小さいお子さんは脱水を起こしやすいので要注意。菌を持ち込まない、殺菌する、で予防して食中毒が疑われるときは早めの受診で対処しましょう。

◆サルモネラ菌
ケイレンや血便などを起こして重症化しやすい。イヌ、ネコ、トリなどの腸にいる菌が食品について感染します。

◆カンピロバクター菌
激しい腹痛や下痢が特徴で



、鶏刺しや小鳥等のペットからの感染に注意が必要です。

◆腸炎ブドウ球菌
主に魚介類から感染します。生で食べる生鮮食品は新鮮なものを選び、時間が経つたものは必ず火を通しましょう。

◆病原性大腸菌
生肉やミンチなどに菌が多く、相次いだ死亡事故で飲食店での「レバ刺し」が禁止されました。肉類はしっかりと火を通してください。

はしかの流行が拡大

3月に沖縄で発生したはしか（麻疹）感染。その後には愛知、福岡、埼玉、東京などに感染者が確認されています。福岡県内でも感染者が昨年の4倍超に拡大。5月22日に「対策本部」を設置して今後の流行に備えました。感染者の多くは20～30代が中心で、この世代は予防接種1回の人達。その後、1回の接種では十分な免疫が得られないことが判明。平成18年からは2回接種に変更になっています。

これらの免疫が希薄な人達の間で流行が拡大してしまふと、乳幼児は感染リスクが増大し、妊婦は感染してしまふと流産の危険性が高くなるので注意が必要。一刻も早くはしかの流行を終息させることが望まれます。はしかは予防接種を確実に受ければ防げる病気です。

今は生後12～24か月未満の間に1回、小学校入学前に1回の計2回の接種ですが、1歳になったら早めに受けて備えることが大切です。但し、5月末の時点でワクチンが未入荷の状態になっていきますので、ご留意ください。



しっかり受けて乳幼児健診

乳幼児期は心身の基礎ができる大事な時期です。隠れた病気や発達障害があると健全な発育が望めません。当院では院長と保健師で対応。子育てのアドバイス等も含めて健診を実施しています。

野外で遊ぼう

青少年科学館がリニューアル

約2億円弱の費用をかけて改修が続いていた「青少年科学館」が、4月にリニューアルオープンしています。改修で充実したのは「宇宙コーナー」、「ロボットコーナー」で、宇宙旅行体験や、ロボットでモノづくりが体験できるようです。



「コスモシアター」

光学式プラネタリウムとデジタル映像システム（レーザープロジェクト）で一千万個の迫力アル星空を再現。ドーム型の天井いっぱいに映し出される星空の映像は、まるで宇宙にいるような錯覚さえ覚えます。

中央公園の側にあり、毎月曜日が休館日になっています。開館は9時30分～16時30分（土日17時）、料金は大人四百円、児童・生徒二百円ですが、プラネタリウムとのセット料金がお徳です。館内はリニューアルされた宇宙コーナー、ロボットコーナーの他、コスモシアター、放電実験室、天体観測室、体験コーナーなどがあります。モノ作りや工作教室は定員があります。（事前の予約が必要）

会場は一時間ごとに入れ替えになっていて、プラネタリウムの星空解説と全天周デジタル映画が上映されます。入館時に見たい番組（ドラえもん、妖怪ウォッチ、秘密の博物館等）の時間帯をチェックしてください。

実験体験ステージ

「科学実験ステージ」ではいろいろな科学現象を、目の前で実験を通して紹介してくれます。サイエンスマジックや身近な素材を使った実験は見ものです。

放電実験ステージ

百万ボルトの落雷実験やアーク放電、浴面放電などのダイナミックな実験にはびっくりする人も多いようです。心臓の弱い方はご用心。

フライトシミュレーター

この装置で飛行機の操縦体験ができます。超人気の体験のため希望の人は入館時に搭乗券をもらいましょう。

宇宙コーナー

今回改修されたお勧めコーナー。太陽系の惑星を組み込んだパネルや、宇宙の窓があります。巨大スクリーンで宇宙旅行を体験してください。

